

農業のみらい

未来の農業

農林水産省によると遠くない未来、世界的な人口増加による食料不足が問題になると言われています。大部分を輸入に頼る日本は、食料自給率をあげることが必要だと言われています。それに対して町の農業に従事する人の平均年齢は約63歳。高齢化が進み、後継者不足に悩む農家も少なくありません。そんな中、現状を憂い、新しく農業の世界に飛び込んだ若者たちがいます。そんな若者たちの思いに未来への希望とヒントを探します。

後継者不足の現実

最新の2015年農林業センサスによると大津町全体の約6割の農家が後継者がいない現実と直面しています。また、さまざまな理由で「離農」という選択をした農家もありました。

離農する理由の中で多いのは「生活できるほどの経済的余裕がない」、「体力的に無理がでてきた」などがあげられています。

しかし、農業に可能性を感じ、都市圏や他の地域から新規就農する若者もいます。彼らは農業に何を見たのか、2つのケースを紹介します。

町に戻ったきっかけ

「もともと2人とも大津町を出て、東京で農業とは全く違う仕事をしていました」という兄の靖幸さん。

東京から実家に戻り、実家を継ぎたいと思ったきっかけは他の業種で勉強してきたことを実家の農業で生かせないかと思っただけと話します。

兄弟での役割分担

「兄は前職で培った営業力を生かし、主に町全体のからいものPR活動や販路拡大、

からいもの可能性

生産効率を上げるための経営方針を立てています。私は、父と母から農業を学びながら生産をしています」と弟の健二さん。

「県外に出てみることで客観的に町のからいものおいしさや魅力に気付く、伝統を守る親世代が誇らしくなりました。同時に全国的な知名度が高くないのもつたいたいという気付きました。町のからいものを全国に発信するために家族で力を合わせ、得意分野を生かしながら、これからは農業に携わっていきたくて」と靖幸さんは語っていました。

―会社員として携わる新しい農業の形を紹介します。

新しい農業の形に興味

「前職は7年間ほど製造業に従事していました。全く違う世界に入り、最初は戸惑いや不安がありました。が新しい農業に可能性を感じて転職しました」と話してくれたのは就農3年目の右田さん。

右田さんが勤めるネットワーク大津(株)では「親から譲り受けた農地だけれど、今は会社勤めだから農業ができない」、「高齢になり足腰が痛い。田植えだけでも手伝ってほしい」という農家の依頼を受け、農作業を代行することを主な業務の一つとしています。

経験不足を補う最新機械

「農業の経験がないことを不安に思う人は多いと思います



▲田畑を管理するシステム



▲大型コンバイン

が、最近では経験不足を補うさまざまな技術を備えた農業機械があります。例えば、弊社では田畑の管理情報をスマホアプリなどで24時間見ることができるシステムや、地図と連動し、農作物の刈り取りをしながら作業経路などを記録できる大型農業機械などを導入しています。これらによって、私は自信を持って仕事ができている」とと笑みを浮かべます。

守りたい景色

「農業機械の研修で他県へ出ると、大津町の農地が美しく

いことに改めて気付きました。耕す人がいなくなり、荒れ果てた農地を見ると心が痛みます。これからは仕事を通じて農業に関わり、子どもたち世代のためにこの景色を守っていきたくて」と力強く語ってくれました。

農業のみらい 未来の農業



未来へつながる農業

自然相手の農業は簡単な仕事ではありません。しかし、農業は私たちの生活に欠かすことのできない食料を供給し、経済や文化、社会的意義などさまざまな役割を持っています。農業のない未来は考えられません。しかし、厳しい状況であることは変わりません。当たり前前の光景を次の世代に伝えるため、農業に関心を持つ、町内産を買って応援するなど、私たちにできることから考えてみませんか。

● Interview



就農3年目

ネットワーク大津(株) 代表取締役 石田 哲章さん

「大型農業用機械に乗り、上手に刈り取りができたときにやりがいを感じます。今は農作業用ドローンの勉強中です」

● Information ~農業を志す人へ~

新規就農希望者をお手伝いします

就農当初の経済的な不安を解消するため、国では支援制度を設けています。町では新規就農を希望する人のためにサポートを行っています。それぞれの状況に合わせて案内をしますので気軽にお問い合わせください。

●問い合わせ 役場農政課 農政係 ☎096(293)3116

新・農業人ハンドブック2018

農林水産省が作った新規就農者のためのハンドブックを役場農政課に用意しています。就農までの流れがまとまっているので便利です。ホームページでも確認できます。インターネットで「新・農業人ハンドブック 農林水産省」を検索してください。



平成31年度県立農大研修生募集

県立農業大学校は、農業を志す仲間と充実したカリキュラムで就農支援をする学校です。応募方法などはお問い合わせください。

●研修コース・対象者

- ①プロ経営者コース：本格的な農業経営を学ぶ 就農時45歳未満
- ②実践農業コース：農産物販売などを学ぶ 原則63歳以下

●受講料 無料(実費負担)

●募集期間 9月18日(火)~10月29日(月)

●問い合わせ

県立農業大学校研修部 ☎096(248)6600



就農3年目

就農6年目

株式会社なかせ農園 代表取締役 中瀬健二さん

「町の農産物は、からいもをはじめ高い品質。全国で戦えるようにさらに勉強を重ね、これからもより高い品質を目指していきたい」

株式会社なかせ農園 代表取締役 中瀬晴幸さん

「若い世代だからこそできる、今しかできないことに失敗を恐れず挑戦して、町の農業の発展に少しでも貢献したい」